

応急修理に必要な写真撮影のポイント

【被災者又は修理業者が撮影】

○ 修理前の状況の写真撮影

風水害等により被災した場合は、破損箇所や修理状況を撮影する際、以下の箇所を必ず撮影すること。

(1) 外観（亀裂、剥がれ、歪みなど）

- ①浸水高がわかるようにメジャー等で高さがわかるように撮影
- ②屋根瓦などのズレや破損状況などを撮影
- ③玄関、窓（サッシ）、外壁等の破損状況を箇所別に撮影

(2) 室内（めくれ、反り、腐食、脱落、カビなど）

- ①居室など浸水・カビ発生等の状況がわかるよう撮影
- ②廊下、台所、トイレ、浴室、各居室の扉や内壁・間仕切壁など修理の対象となる箇所を撮影
（床材のめくれ、反り、カビ、腐食など）
- ③浸水した断熱材などが脱落している状況やカビが発生している状況を撮影

(3) 設備（破損、故障など）

- ①キッチン、トイレ、浴槽、洗面台、給湯器などの故障箇所・破損箇所がわかるように撮影
- ②設備の型番・形式等がわかるように撮影し、修理後に設置した設備と同等品であることがわかるようにすること。

※ 屋根などの撮影を行う際は転落しないように十分に気をつけること。

自分で撮影できない箇所等は修理業者等に撮影してもらおう等すること。

【修理業者が撮影】

○ 修理中・修理完了後の写真撮影

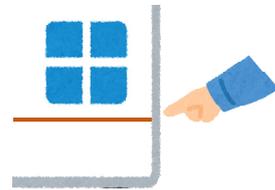
修理箇所を施工段階から完了まで撮影すること。以下、一例を挙げる。

- ①床の修理：根太の交換→断熱材の交換→下地材の交換→床材（畳）交換
- ②設備交換：故障した設備の取り外し→故障箇所の確認→製品の交換
- ③屋根修理：足場の設置→古い屋根材の撤去→野地板交換→防水シートの交換
→屋根材（瓦）の設置→雨樋交換など→足場撤去

応急修理に必要な写真撮影のポイント

(1) 外観(壁、玄関、窓、屋根など)の亀裂、剥がれ、歪みなど

- 浸水高がわかるようにメジャー等で高さがわかるように撮影しましょう。
 - ・メジャー等がない場合は浸水高を指さして撮影しましょう。
- 破損状況を箇所別に撮影しましょう。
 - ・室外で撮影する際は、逆光による白飛び等や明るさ不足による潰れに注意してください。
 - ・また、屋根など撮影に危険が伴う場合は修理業者に依頼してください。



(2) 室内(床板、扉、壁など)のめくれ、反り、腐食、脱落など

- 被災した部屋ごとの全景写真を撮影しましょう。
 - ・片付け等をした後だと被害状況がわかりにくくなってしまいます。事前に撮影しましょう。
 - ・室内で撮影する際は、明るさや手ぶれに注意してください。
 - ・また、フラッシュをたいた場合は光の反射に注意してください。
- 破損状況を箇所別に撮影しましょう。



(3) 設備(キッチン、トイレ、浴槽、給湯器など)の破損、故障など

- 破損箇所・故障箇所がわかるように撮影しましょう。
 - 設備の型番・形式等がわかる写真も併せて撮影しましょう。
 - ・応急修理制度は被災前の同等品への修理・交換が対象となります。
- ※家電製品は、対象外となります。



<修理業者の方にもお伝えください>

- ・工事の修理中、修理後の写真も必要となります。修理業者に撮影を依頼しましょう。

<ご注意>

- ・既に支払い済の工事は、対象外となります。
- ・工事完了後でも、支払い前であれば、対象となりうる場合があるため、一度、市町村窓口までお問合せください。